

論文審査の要旨	
筆頭著者（学位申請者）氏名	川上 大裕
主論文の題目 および 掲載・審査委員	題目 Evaluation of the Impact of ABCDEF Bundle Compliance rates on Postintensive Care Syndrome: A Secondary Analysis Study（集中治療後症候群における ABCDEF バンドル遵守率の影響の評価：二次解析研究）
	掲載誌 Critical Care Medicine 2023;51:1685-1696.
	主査 佐々木 信幸
	副査 井上 莊一郎
	副査 古屋 直樹
[論文の要旨・価値]集中治療後症候群(post intensive care syndrome: PICS)の予防として ABCDEF バンドルの実践が推奨されているが、これまで長期的な予後に与える影響を検討された研究報告はない。本研究では、14 施設の 16ICU における多施設前向き観察研究として施行された J-PICS 研究(Crit Care 25 : 69, 2021)の二次解析として、バンドル遵守率と長期死亡率・PICS との関連について調査された。 2019 年 4 月から 6 ヶ月間に ICU に入室した対象患者 191 名のうち、33 名(17.3%)が院内死亡、48 名(25.1%)が 6 ヶ月後に死亡した。生存者のアンケート有効回答は 96 名であり、PICS は 61 名(63.5%)に認められた。全患者におけるバンドル遵守率は 69.8%であり、特に SAT/SBT の実施率はそれぞれ 92.9%/90.3%と非常に高いことが特徴であった。6 ヶ月後死亡群でバンドル遵守率は有意に低かった(死亡 66.6%、生存 71.6%、$p=0.031$)。一方、バンドル遵守率は PICS 発症と関連を認めなかったが(PICS あり 71.3%、なし 69.9%、$p=0.61$)、平均以上の患者数登録があった high volume center のみで検討すると、バンドル遵守率と PICS 発症に強い負の相関を認めた($R=-0.87$, $p=0.025$)。また、患者 1 人 1 日あたりのバンドル遵守率は有意に 6 ヶ月死亡群で低かったが(死亡 66.5%、生存 70.9%、$p=0.0059$)、PICS 発症との関連は認められなかった(PICS あり 71.4%、なし 70.4%、$p=0.68$)。 バンドルの長期的効果を報告した初の研究であり価値がある。バンドル遵守率が高いほど 6 ヶ月後死亡が少ないことが示された一方で PICS 発症との関連性は認められなかったが、high volume center に限れば強い負の相関があり、バンドル遵守が PICS 予防にも有効である可能性が示唆された。一方で、バンドル遵守により生存したことが PICS に繋がった可能性もあり、今後さらなる検討が必要である。	
[審査概要]症例数や急性期治療におけるバラエティ、優れたケアが一般化することによる usual care と介入群との差の減少など、急性期対象研究に生じがちな制限はあるものの、ABCDEF バンドルの長期的効果について建設的な成果が得られた初の研究であり、論文の価値は非常に高い。	
最終試験結果の要旨	
[研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価]項目ごとの遵守率集計方法の差、生存による PICS 発生など、研究の前提となる疑義もぶつけられたが、申請者は適切に回答し、背景となるこれまでの intensive care の歴史や成果についても十分に知識を有していた。英語能力については引用文献の要約和訳によって評価した。申請者は非常にスムーズかつ自然な和訳が可能であり、英語能力の高さも確認できた。学位授与に値すると考える。	